

福岡市立病院機構における
重要課題の対応について

- 1 病院機構における新型コロナウイルス感染症への
対応について

保健医療局

1 病院機構における新型コロナウイルス感染症への対応について

(1) 患者受入状況

① 患者対応数 [令和5年7月末時点]

区分		外来患者数	PCR検査数	陽性者数	入院患者数	陽性者数
こども 病院	令和元年度	29	29	0	9	0
	2年度	1,130	1,075	28	185	16
	3年度	2,423	2,303	170	121	109
	4年度	3,412	3,120	446	458	446
	5年度	1,262	1,050	47	47	47
	計	8,256	7,577	691	820	618
市民 病院	令和元年度	124	79	11	23	5
	2年度	5,212	5,150	1,086	418	314
	3年度	1,374	1,341	761	500	379
	4年度	1,370	1,350	891	489	384
	5年度	148	145	72	103	102
	計	8,228	8,065	2,821	1,533	1,184

② 病床確保数（カッコ内の数値は重症病床の数（内数））

区分	令和4年 所管事務報告	令和5年 7月末	備 考
こども病院	43床 (2床)	43床 (2床)	一般病床43床（うちハイケアユニット2床）をコロナ患者の受入にも活用できるよう確保
市民病院	43床 (11床)	19床 (4床)	指定感染症4床、一般病床19床（うちハイケアユニット4床）の計23床をコロナ患者専用に変換（個室ではない共同部屋の4床について、感染予防の観点から運用休止としている。）

(2) 主な取組状況

福岡市立こども病院

- 令和4年5月に県より「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、コロナ病床を追加で確保し（21床から43床へ）、また、感染症拡大時の陰圧室の不足に備え、簡易陰圧装置1台を導入した。
- 令和4年7月以降の第7波においては、市の要請及び自主的な対応として、受入体制を拡充し休日診療（救急外来）を実施するなど、急増した小児のコロナ感染患者を積極的に受け入れた。
- ワクチン接種に伴う副反応への対応を考慮した市からの要請に応じて、基礎疾患を有する小児や乳幼児へのワクチン接種を実施した。
（乳幼児（生後6か月～4歳）延べ286人、小児（5歳～11歳）延べ17人）

福岡市民病院

- 市が設置する転院支援調整本部への医師の派遣（延べ21人）及びJMAT（日本医師会災害医療チーム）活動への医師の派遣（延べ50人）を行った。
- 新たに感染対策情報発信センター（I C I C）を設置し、病院ホームページにおいて地域の医療従事者に向け感染症に関する情報発信を行うとともに、地域の医療機関や保健所と合同で感染対策訓練を実施した。
- 院内クラスターが発生した地域の医療機関からの相談に応え、当院の医師及び感染管理認定看護師が出向いて発生箇所を点検・確認し、問題点に関する助言を行うとともに、ゾーニングやPPE（個人用防護具）着脱等の感染対策に係る指導を行った（令和4年8月、令和5年1月）。